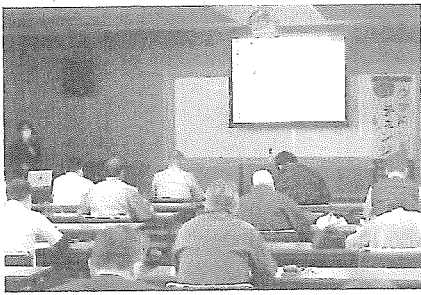


SDGsで勉強会

埼玉県木材協栄和会

埼玉県木材協会（鳥崎政敏会長）と東京木材相互市場相互取引市場買方組合栄和会（田辺修一理事長）は11月16日、埼玉県防災学習センターでSDGsに関する勉強会を開催した。協会の会員ら約30人が参加した。

テーマは「SDGsについて〜環境SDGs宣言企業へ〜」。冒頭のあいさつで鳥崎政敏埼玉県木材協会会長は「SDGsといろいろな所で聞くが、目標が大きすぎて何をすべきか分からないという人も多いのではないかと。SDGsのことを大まかにでも理解し、やれることをやってみようと思うことが大切なのではないか」と話した。



埼玉県の木材関連企業の経営者などが参加した

講師として登壇した埼玉県中小企業診断協会の木村裕美中小企業診断士は、まずSDGsの概要を解説。その後、現代の子どもたちは環境問題や社会課題について意識が高い傾向にあるといい、世代間で意識差が大きいことを指摘した。さらに企業同士でも取引先にSDGsに対する意識を求められるようになってきており、SDGsを戦略化することで事業機会の創出にもつながると話した。

さらに同氏はSDGsに積極的に取り組む企業の一例として、埼玉県内で木材や建材を販売する企業など数社を紹介。ある企業では埼玉県産材の利用を推進していることなどを自社ホームページ上で発信しており、そうすることで

取り組みの周知につながっていると語った。また、埼玉県が2021年度の「SDGs未来都市」に選ばれていることを取り上げ、具体的な計画として、県産木材の供給量を19

年度の9万7000立方メートルから26年度までに12万立方メートルに増加させることなどを「埼玉県SDGs未来都市計画」としてまとめていることを伝えた。

（以下、記事の続きが読み取れない）